

グループホーム照日ヶ丘

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		今後も具体的例を挙げながら、実践に向けた取り組みを行っていききたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		法人全体として取り組んでいる地域対象の介護者教室等に講師として参加し、その際にグループホームの理解にかなげるような取り組みを行うよう平成21年度は計画している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		在宅介護支援センターと連携し、介護教室や老人会への参加等地域の方にとけ込めるような取り組みを行っていききたい。

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年は、在宅介護支援センターの協力の下、認知症高齢者に関しての講習会を開催することができたが、今年はまだできていない。職員とどうい事ができるか話し合い、取り組みたい。		在宅介護支援センターと協力し、定期的実施できるように取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員が理解し、昨年の評価内容を改善できるように話し合い、日々の介護に反映できるように取り組んでいるが、十分ではない。		今後もできる事がないかを話し合い、少しずつでも改善できるように努めたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況や取り組みを報告している。テーマを決め実施するように話し合ったが、今年度は3回の開催となった。食事の試食会を開催し、意見をいただいた。		来年度も意見交換のみでなく、他の施設の見学会などを通して、比較などを通して意見を言ってもらえるようにしている。また今年度に引き続き試食会を開催し、意見をいただく予定にしている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場に出向いた際は、グループホームの状況等を話している。		行政の担当課のみでなく、他の課とも連携を深め、利用者のサービスの向上に努めていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度利用の方がいる為、機会があるごとに資料を取り寄せ職員が理解できるように説明を行い、利用者の支援につなげている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待法の勉強会を開催たり、日々の中でどうい事が虐待となるか話をし、防止に努めている。		職員の理解をより深めていくために、勉強会の際には、具体的な事例などを挙げながら研修する予定にしている。また日頃から主任系職員が注意を払い防止に努めたい。

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書などをわかりやすく説明し、事業所の方針やできる事とできない事を明確に説明し、理解、納得をしていただけるようにしている。日頃から不安なことなどが無いか伺うようにしている。</p>		<p>よりわかりやすく説明ができるよう、特に注意が必要な点などについて説明の仕方を工夫したい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々利用者から、意見を出していただけるような雰囲気作りを行っている。出された意見等は、職員で話し合い、反映できるように努めている。</p>		<p>定期的な話し合いの機会を設け、意見等を出していただけるように取り組みたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の生活を写真に撮り、一人ずつアルバムにしている。ご家族の面会時に見ていただきながら、状態を報告している。来られないご家族に対しては、電話にて生活状況をお伝えしている。</p>		<p>電話のみの報告ではなく、たよりを発行するなどして、より状況が分かるように取り組んでいきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置し、少しでも意見や要望を聞けるようにしている。ご家族には来苑時に積極的に声をかけ、何でも話していただけるような雰囲気作りを行っている。出された意見は、職員で発生要因を話し合い、反映させている。</p>		<p>ご家族との交流の機会をもつようにし、もっと意見等が聞けるような仕組みを検討したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>休憩時間等を利用し、意見等を聞くように心がけているが、言いにくい所もある為、把握できていない所もある。</p>		<p>会議の中や日々職員から意見や提案を出していただけるようにし、反映できるように努めたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態に応じた体制ができるように、その都度話し合い勤務調整に努めている。</p>		<p>利用者の安全が確保できるように今後も柔軟な職員体制に努めていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応することが重要であると考え、各ユニットの職員を固定化している。離職等の場合も利用者が不安にならないように引き継ぎ面等配慮している。</p>		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	職員募集や採用には、性別、年齢等を採用対象にはしていない。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	研修会のほか日々のケアの中で人権などについては、話している。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修会のほか日々のケアの中で人権などについては、話している。		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	情報交換程度しかできていない。		他事業所と交流の機会を設け、サービスの向上に努めたい。
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	ストレスの要因について気を配り、職員間の人間関係を把握するように努めている。		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場を訪れ、利用者とお茶を飲みながら、一緒に過ごす時間を設けている。職員の勤務状況も把握しており、職員が向上心を持って働けるように職能評価を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談の際、本人やご家族から情報収集を行い生活状態を把握するようにしている。また、担当ケアマネージャーとも連携し対応している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の不安な事、求めている事等を話していただける雰囲気作りを大切にしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の思いや状況を確認し、出来る事はすぐに対応し、できないと思われる事に対しても、どうにかできないかを職員で話し合い対策を考えるようにしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族に見学していただき、納得してから利用していただくようにしている。不安がある場合は、職員が送迎を行い遊びに来ていただくことを繰り返しながら安、定するのを見極め利用していただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であるという考えを常に職員と話し、普段から利用者に教えていただく事の工夫や、利用者が主人公になれる場を作るよう心がけている。		グループホームの特徴を生かし、利用者の希望する細かな行事や調理などの機会を今以上に設けていきたい。

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事等情報が共有できるようにし、利用者ができる事を一緒に考えていけるように努めている。		望む暮らしを家族と一緒に考えていきたい。(在宅復帰への支援など)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの家族関係を理解し、その中でできるだけ良い関係が築けるように支援している。外出や外泊で一緒に過ごすことを勧めたり、行事への参加も声をかけている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に立ち寄った際、近所の方を訪問し、声をかける等関係が途切れないように努めている。系列のデイサービスや施設の馴染みの方と行き来し、関係が途切れないようにしている。お墓参り等は、ご家族にも協力をしていただき、一緒に出かけられるよう配慮している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、気の合った利用者同士で過ごせるように配慮している。利用者間がうまくいくように職員が調整役となり、お互いが支えあえるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅生活や施設入所になった場合は、連絡や訪問をしてできるだけ状況の把握に努めている。また、困ったことがあった場合には、連絡をしていただくようにし話をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	望む暮らしを常に考え、利用者、ご家族から情報を引き出したり、何を望まれているか等普通の会話の中から見つけるようにしている。また、表現が難しい利用者に対しては、ご家族に情報や、本人の表情から読み取るようにしている。		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントで把握するだけでなく、会話の中で知らない事が出てきた時には、確認をするようにしている。また、地域での人間関係や親せき関係などの把握も行っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で話し合いを持ち、把握するようにしている。また、日々の生活変化などにも常に気をつけるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように本人、ご家族の意見の他、栄養士、看護師等の意見も聞きながら、介護計画に反映できるようにしている。		今後も幅広い意見を聞きながら介護計画に、反映できるように努めたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画は6ヶ月ごとに見直しを行っている。状態の変化があった場合は、必要な関係者とその都度見直しを行っている。		本人、ご家族の要望や変化に応じ、見直すことができていない所もあり、今後、現状に即した計画ができるように取り組みたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気がついた事や利用者の状態変化は、個別に記録にし、職員間の情報共有を徹底し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列のデイサービスや施設を訪問したり、行事への参加もしている。自宅へ帰りたい、買い物へ行きたい等、できるだけ要望に応えられるように支援している。		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域密着型サービスであり、近郊からの利用者が多く、生活歴等を参考にしながら対応を図り支援している。		地域資源を活用し警察や近隣の方とも連携をとりながら対応していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームに入所された後に他のケアマネジャーと連携する事はないが、系列のデイサービスや特養とは、連携をとりながら支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただいているが、それ以外の連携はとっていない。		情報交換を行い、協力関係を築いていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、在宅でのかかりつけ医がそのまま診ていただけるように話をしている。往診体制がなかったり、遠方などの医療機関については、話し合いをもち既往歴から判断し、対応できる医療機関を紹介している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に認知症専門医がおり、連携体制をとり指示や助言をいただいたり、こちらから相談等を行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。夜間帯や急変時等は、系列の特養の看護師と連携できるようにしており、情報を共有している。		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の支援方法等情報を医療機関に提供している。職員も出来るだけ面会に行き、状態を医師や看護師に伺い、ご家族とも連絡をとりながら、早く退院ができるようにしている。		入院時の情報をもとに職員間で話し合いを持ち、退院時のケアがスムーズに行えるようにしている。その旨を入院先やご家族にも伝え、より連携できるように努めたい。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期の対応については、主治医とご家族を交え話し合いをもち、グループホームでできる事、できない事の説明も行っている。可能な限りホームでケアを行う方針であり、職員も理解している。研修等を行い終末ケアの知識を習得し、活かせるように取り組んでいる。		系列の特養にて研修を実施しているが、今後も継続し知識や技術の習得に取り組むたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の意向を踏まえ、事業所としてできる事、できない事を見極め、今後考えられる事等主治医と連携をとり支援に努めている。		緊急時の対応ができるように研修会を計画的に実施していきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合は、本人の状態やケアプラン等を渡し、情報交換を行っている。移り住む先でケアが継続され不安なく生活ができるように努めている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しては、人生の大先輩である事を心がけ、尊厳を傷つける事のないように、言葉使いには十分注意するようにしている。利用者の個人情報に関しては、理解しており職員から漏れる事のないようにしている。また、記録等は、事務室の鍵付きの書棚に保管している。		今後も、職員間で話し合いをもち、尊厳を大切にしていきたい。

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	能力把握を行い、個々の利用者対応に合わせた声かけを行うようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの利用者の生活習慣を大切に、希望に添えるように支援している。起床、就寝時間、食事時間等本人のペースを大切にしている。		利用者が主人公である苑の考えを職員が理解し、対応している。今後も一人ひとりのペースを大切にしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院については、今まで利用した美容院に行けるように配慮している。また、身だしなみについて配慮し、声掛けや援助を行っている。また、買い物に行く際にも行きたい店があれば、その店に行くようにしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付け等職員と一緒に、職員は各自弁当を持参しているが、職員と利用者が一緒に食事ができるよう雰囲気作りは大切にしている。		状態変化により、利用者も出来る時とできない時が見られるが、一人ひとりの能力を引き出せるように取り組みたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人一人の嗜好品を把握しており、状態や時間を見ながら楽しめるようにしている。それらを買うに行くのも楽しみの一つとしている。タバコについては、職員が管理しており、他の方に迷惑にならないように喫煙所を決めている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	可能な限り排泄リズムに合わせ、介助するようにしている。また、下剤を出来る限り使用しなくても無理のない排便ができるように食事、運動などからも支援している。		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しており、利用者のその日の希望に応じゆっくりと入浴ができるように支援している。拒否される利用者にも声かけを工夫しながら、週2回は必ず入浴を実施している。		今までの生活習慣や希望に合わせて入浴ができるように配慮し、取り組みたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、活動への参加を促し、生活リズムを整えるように努め、体調や表情を見ながら休息を促している。夜間眠れない時には、温かい物を出し、話をするなどの配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を活かし個々の能力が発揮できる場面を随時作っており、感謝の言葉を添え役割の大切さを支援している。外出先やおやつ作りの楽しみ事も、利用者と一緒に相談しながら行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持つことの意義を理解し、家族と相談しながら本人の金銭管理の支援に取り組んでいる。外出時や買い物をされた時には、自分の財布から出してもらうようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分に応じて散歩や買い物、ドライブに出かけている。外食やお弁当を持ち戸外へ出かけることも行っている。裏の芝生広場を利用し、夏はソーメン流しやレクリエーションを楽しんでいる。		地域の行事などの情報をつかみ、行事計画に入れ、外出の機会につなげている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お彼岸、お盆等の墓参りは、家族と相談、協力し、実施できたが、まだ働きが十分とは言えない。		ポスターの掲示などで利用者及び家族の希望等が取れるようにし、外出機会につなげていきたい。

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるように配慮している。ご家族や知人の方から贈り物が届いた時等は、お礼の電話をするようにし関係が途切れないように支援している。		ご家族や大切な方との関係が途切れないように働きかけ、取り組んでいきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問日時は決めていないが、都合のよい時に来ていただけるようにしている。本人とご家族でゆっくり過ごせるように配慮している。希望家族に対しては、食事の提供や宿泊もできるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になるものを日々のケアの中で具体的に挙げ、職員に理解できるようにし、身体拘束がないように取り組んでいる。		自分では、気づかない身体拘束がないか職員間で点検を行いながら、今後も取り組んでいきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はタッチ式の自動ドアに対応しており、日中は施錠は行っていない。職員は鍵をかける弊害を理解しており、行動が落ち着かない利用者には、本人に気付かれないように職員が見守りを行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者がいるホールで記録作業を行いながら、全員を把握するようにしている。夜間は数時間おきに巡回すると共に、必要な利用者に対しては、センサーを利用している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などは保管場所を決めて管理している。一律に片づけてしまうのではなく、常に利用者の状態に合わせて対応している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じて想定される事故を職員間で話し合いながら、事故防止に努めている。事故報告書やひやりはっと報告書を活用し、事故防止に努めている。		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを整備し、すぐに対応が出来るようにしている。異物除去法や酸素の使用法等、看護師を交え定期的に行っている。		平成21年度も消防署と連携をとり、誤嚥時等の対応の講習会を開催予定
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合防災訓練を年2回開催し、避難訓練、消火訓練などを行っている。その際に、避難場所等の確認を行っている。また、照日台団地の住民に対しては、集会に参加させていただき、現在の状況をお知らせすると共に協力依頼をしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況により起こり得るリスクに対しては、適宜説明をし、理解していただくようにしている。特に医療関係に対しては、主治医に依頼し、説明していただくようにしている。		看取りに関するニーズが高まっており、看取りに関しての職員の教育の他、主治医との連携の強化を図っていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を把握し、少しでも顔色等の変化があった場合は、バイタルチェックを行い、看護師に報告し対応している。系列の看護師と常に情報を共有し、連携を取っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を添付し、副作用については職員が把握している。服薬時は、名前を確認のうえ手渡し、服薬が確実に行えたことを確認している。薬の処方や用量が変わった時は、職員に伝達し、状態を記録を行い、看護職員との連携に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分摂取に留意し乳製品を摂っていただいたり散歩等体を動かす機会を設けるようにしている。下剤を服用する場合は、主治医に相談している。		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、毎食後歯磨きを実施している。自分でできない方には援助し、できる方にも磨き残しがないか確認をしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、看護師と相談しながら対応をしている。食事が低下した場合は、本人が好きな物を提供している。水分摂取の重要性を職員は理解しており、1日の必要量を目安に飲んでいただくように飲み物の種類も多く準備している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを整備し、職員が周知している。流行の時期には、看護師が注意点や対応を再度話している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんやまな板は毎日漂白剤にて消毒をしている。食品に関しても賞味期限等をチェックしている。冷蔵庫や冷凍庫の食材も点検を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を植えたり、裏の芝生広場を散歩や子供たちの遊び場に利用できるようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔にし植物を飾ったり、利用者に季節の花を生けていただき、季節感を感じていただけるように配慮している。		

グループホーム照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや玄関にソファやベンチを置き、いつでも話ができる空間を確保している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には押し入れしかしか設備されておらず、自宅で使用していた馴染みの家具でレイアウトしていただくようになっている。その搬入等は職員と一緒に自宅に取りに行く等の協力をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においに対しては、注意をしており独特のにおいがしないよう換気を行っている。温度管理は、利用者の状態に合わせてこまめに調節している。		空気清浄機を新たに設置したが、必要であればまだ増やすなどの策を講じたい。
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が利用する物は、使いやすいように配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱の原因を探り、状況に合わせて環境整備に努めている。		日々、利用者の意識状態は変化し、その時の状態に合わせた対応ができるように支援していきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	芝生広場を外気浴やレクリエーション活動、野外食等に利用している。ベランダには物干し台を設置し、利用者が洗濯物を干したり、取り込んだりしている。畑にきゅうり、ナス、さつま芋等の野菜を作り、献立の1品として調理を行う。		

グループホーム照日ヶ丘

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム照日ヶ丘

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

社会福祉法人みのり会が昭和63年からこの地にあり、特別養護老人ホームとして多くの活動をしている。グループホーム照日ヶ丘としては、この点を大いに活用し、地域行事や地域の方々との接する場に出ていきたい。また法人全体の地域を巻き込んだ行事も多くあり、積極的に活用していきたい。

特別養護老人ホームで勤務経験がある職員も多く、利用者の重度化に対して経験があり、出来る限りこのホームにいたいという利用者及びご家族の希望をかなえていきたい。その為には、経験者が職員の教育をし、また教育の場として特別養護老人ホームをうまく活用していきたい。